

さぶりめんと

2013-Mar.

No. 24

皮膚がんは増えている

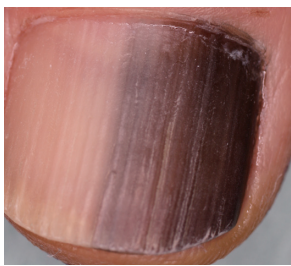
皮膚科 福山 國太郎

皮膚がんは、肺がんや胃がんに比べるとなじみが少ないため、患者さんによっては「皮膚にもがんができるのですか」と言われる方もいるほどですが、高齢化や紫外線の影響などからか、皮膚がんの発生率は年々増えていきます。1985年から2002年の間に約20%も増加しており、将来はさらに増えると予想されます。

皮膚がん検診のすすめ

がん治療では早期発見、早期治療が何よりも大切です。皮膚がんは臓器にできるがん違って目で見る事ができるため、皮膚がんの症状さえ知っていれば、自分で発見することも可能です。早期の皮膚がんであれば、治療は非常に簡単にすみますので、ぜひ皮膚の自己チェックをしてみましょう。

皮膚がんを疑う症状は、黒いものと、黒くないものにわけて考えるとわかりやすいと思います。黒いものの代表は「**悪性黒色腫**」いわゆる「**ほくろのがん**」で、最もよく知られた皮膚がんです。全身どこにでもできますが、顔面と爪、足底にできることが多いです。



初期の爪部悪性黒色腫



足底の悪性黒色腫



鼻の悪性黒色腫

CHECK!

悪性黒色腫のチェックポイント

- ☒ 左右対称でない
- ☒ 辺縁が不整
- ☒ 色むらがある
- ☒ 直径6mm以上

アメリカがん学会

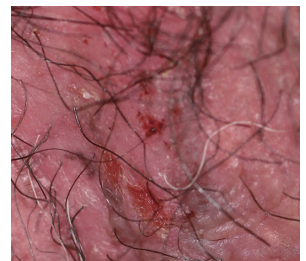
CHECK



もう一つは「**基底細胞がん**」という黒いがんがあります。症状は悪性黒色腫とほぼ同じです。このがんは顔面に多く、**表面に光沢をもっていて出血することが多い**のが特徴です。

一方、黒くないがんは、顔面手背に多い「**日光角化症**」、体幹に多い「**ボーエン病**」、陰部に多い「**乳房外パジェット病**」が代表的です。共通するのは**一見湿疹のよう**に見えることです。薬をつけても全く大きさが変化しなかったり、年単位で続いて徐々に大きくなったりする湿疹は皮膚科専門医に診てもらいましょう。

また、盛り上がった腫瘍では色調に関係なく、もともと上記のような初期のがん症状があったところに生じて**急速に大きくなったり、出血したり、形が球形でなくいびつ**である場合などは注意が必要です。初期のがんは盛り上がっていないものが多く、腫瘍と思われていないことも多いのですが、上記の症状に当てはまったら迷わず皮膚科を受診してください。



男性の外陰部に生じた乳房外パジェット病

気になる症状があれば、
皮膚科専門医にご相談ください。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**

尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>携帯版HP <http://kanrou-mobile.jp/>ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>

発行人 林 紀夫

編集人 堤 圭介

